

婦人用衣服のアームホール曲線について

山田 民子*, 赤見 仁**

(平成10年9月30日受理)

Study on the Arm hole Lines of Dress Patterns

Tamiko YAMADA and Hitoshi AKAMI

(Received on September 30, 1998)

1. 緒 言

前報では、文化式と東京家政大学式の2方式の衣服原型に関して、被服構成学の指導者が描いたアームホール曲線の平均値から描いたその曲線を同一座標上の曲線として検討を行った。

結果は次の通りであった。

(1) 2方式の衣服原型のアームホール曲線はかなり類似していると考えられた。サイズごとの衣服原型のアンダーアームホール曲線は、ほとんどの曲線がほぼ一致した曲線になることがわかった。

(2) アームホール曲線は一致する部分と、一致しない部分に分かれた。

本報においては、デザインの異なるブラウス、ジャケットのパターンのアームホール曲線について、同じ方法を用いて検討を行った。

目的は次の通りである。

(1) ブラウスとジャケットのパターンのアームホール曲線においても、共通な曲線のイメージが存在するか、否か。

2. 実験方法

(1) 試料

1) ブラウスのパターン

① ブラウスは原型からパターンを起こしてあり、デザインがシンプルで、ゆとり量に相違のあるものを雑誌から選定して原寸大のパターンにしたもの 31種

1993年 装苑 7種

1988年 装苑 5種

1983年 装苑 6種

1993年 スタイルブック 5種

1988年 スタイルブック 5種

1983年 スタイルブック 3種

② 工業用パターン 6種

2) ジャケットのパターン 7種

① ドレス原型

② ジャケット原型 3種

幅出ししていないもの

幅出ししたもの

シャネル原型

③ イタリア式の製図より作図したもの

テーラード・ジャケット 1種

④ ラブオフ法による既成のジャケット 3種

シャネル・ジャケット 1種

テーラード・ジャケット 2種

(2) 測定方法

1) パターンのアンダーアームポイントをb点とし、b点からバストラインに直角な線をY軸とした。

2) 前、後見頃それぞれのショルダーポイントをc点とし、c点からY軸に直角な線を引きそれぞれの交点をa点とした。

3) a点とb点の間を16等分し、アームホール曲線をバストラインに平行な直線の交点を作った。

4) a b間の各分割点とA、Hの交点の距離を測定した。

5) Y軸の16等分座標値(1単位距離1cm)にし、X軸は4)の座標値を用いてアームホール曲線を表した。

6) 曲線の一番下の点をd点としd点より垂直にあげた直線をY軸とした。Y軸と曲線の繰りの一番深

* 服飾美術科 被服構成学実験研究室

** 服飾美術学科 被服構成システム研究室

い点の距離を8等分し、Y軸に平行な直線の交点を作った。

- 7) X軸からアームホールの交点までの距離を測定した。
- 8) Y軸の16等分座標(1単位距離1.0cm), X軸の8等分座標(1単位距離0.5cm)を用いてアームホール曲線を表した。
- 9) この写像した曲線について、比較検討をした。

3. 結果・考察

アームホール曲線の検討部分はデザインやサイズの影響が少ないと考えられるアンダーアームホール部分とした。

1) ブラウスのアームホール曲線について

図2は、装苑のブラウスについて、年代別にBackのアームホール曲線を同一座標上に重ねたものである。

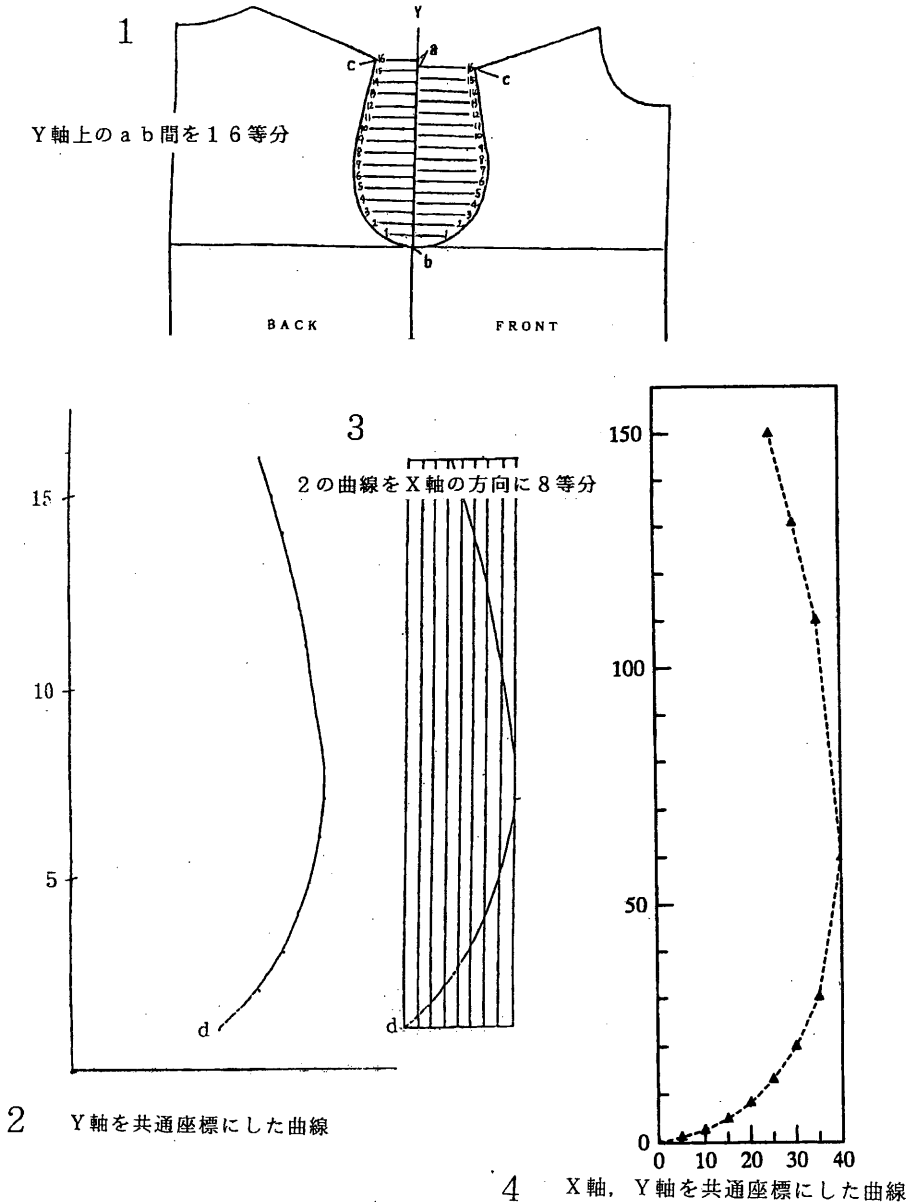


図1 測定方法

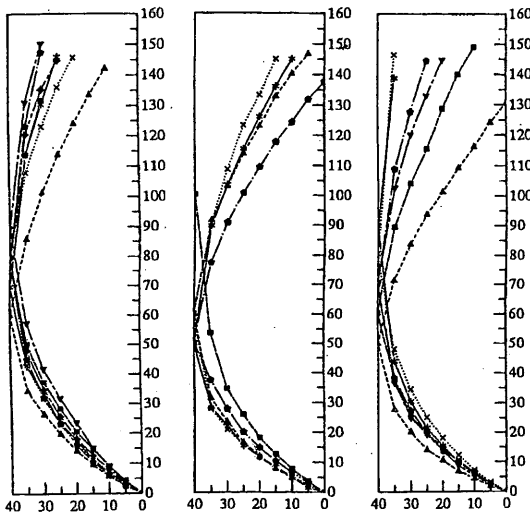


図2 年代別にBACKのA.H曲線を重ねたもの
(装苑 プラウス)

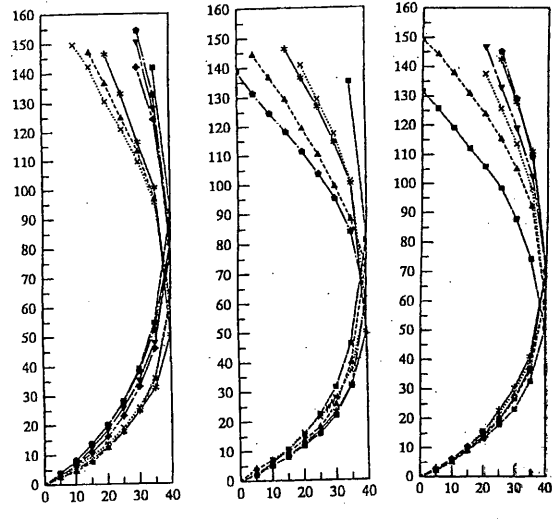


図4 年代別にFRONTのA.H曲線を重ねたもの
(装苑 プラウス)

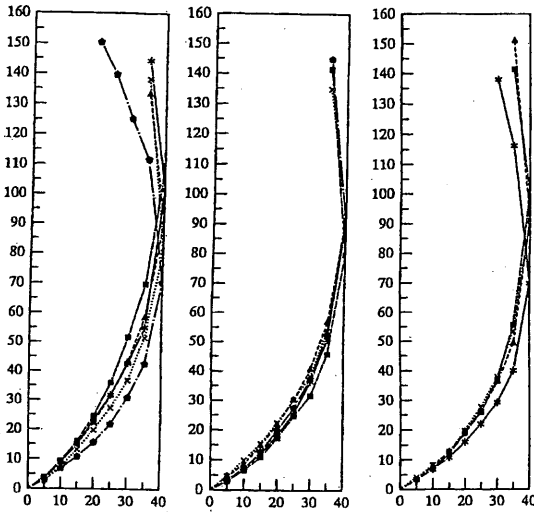


図3 年代別にBACKのA.H曲線を重ねたもの
(スタイルブック プラウス)

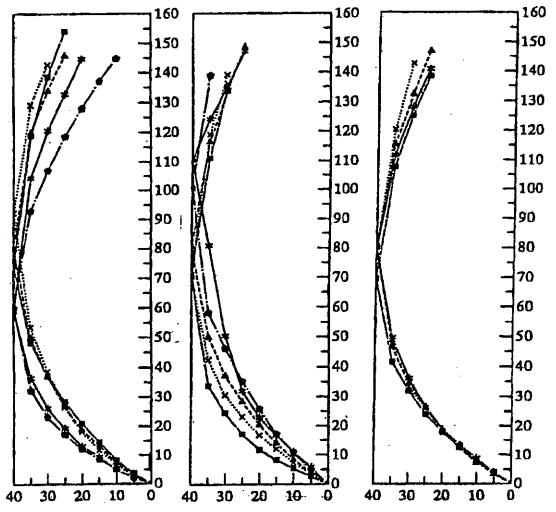


図5 年代別にFRONTのA.H曲線を重ねたもの
(スタイルブック プラウス)

図3は、スタイルブックのプラウスについて、年代別にBackのアームホール曲線を重ねたものである。

アームホール曲線の形は、どちらの方式も年代による特徴は見られなかった。

方式における変化をみると、ドレメ式によるプラウスのアームホール曲線の方が変化が少ない。

図4は、装苑のプラウスについて、年代別にFrontのアームホール曲線を重ねたものである。

図5は、スタイルブックのプラウスについて、年代別にFrontのアームホール曲線を重ねたものである。

Frontのアームホール曲線は、2方式とも1983年のものにはバラツキが少なかった。

方式による変化は、文化式によるブラウスのアームホール曲線の方が変化が少ない。

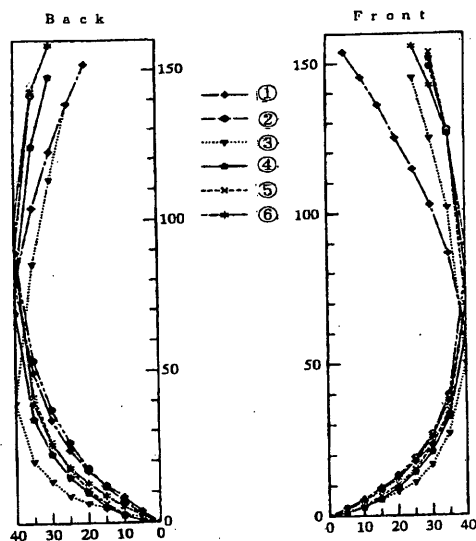


図6 工業用ブラウスパターンのA. H曲線を重ねたもの

図6は、工業用のブラウスパターンを重ねたものである。

Front, Backとも、それぞれ3通りに分類できることがわかった。

装苑、スタイルブックのブラウスにおいても、Front, Backともバラツキが見られるが、類似している曲線のあることがわかる。この類似している曲線を年代、方式に関係なく重ねて検討した。その結果、Frontの曲線においては4通り、Backの曲線においては5通りに分類することができた。

表1は、雑誌の製図より作成したブラウスのアームホール曲線について検討したものである。

表2は、工業用ブラウスパターンのアームホール曲線について検討したものである。

アームホールは、年代、方式、身幅のゆとり、大きさに関係なく形によって類別できることが分かった。

図7は、雑誌からのブラウスパターンによるFrontのアームホール曲線の形と出現率である。

- 原型のアームホール曲線とほとんど一致した形 45.16%

- × ○のアームホール曲線より丸みが浅い形 41.93%

- 袖下と見頃を続けて縫製するものに多く見られる袖下で尖っている形 9.68%

- = アームホール曲線の丸みが極端に大きい形 3.23%

図8は、Backにおけるアームホール曲線の形と出現率である。

△のグループに分類されるものがあった。原型のアームホール曲線より丸みが深い形となっていた。

- 41.94%
- 29.03%
- × 12.90%
- △ 12.90%
- = 3.23%

FrontとBackのアームホール曲線は、形が異なるが原型のアームホール曲線を基準として考えると、同じように分類することができる。

図9は、Frontにおける工業用パターンのアームホール曲線の形である。

図10は、Backにおける工業用パターンのアームホール曲線の形である。

工業用パターンのアームホール曲線には●印のものが多く見られた。工業用パターンは縫製において作業効率を考えられて形が作成されていることがわかった。

以上の結果から、同一座標上で見たブラウスのアンダーアームホール曲線は、Front, Backとも同じようなグループに分かれ、共通なイメージを持っていることが分かった。雑誌の種類、年代に関係なくアンダーアームホール曲線は形によって、類型化できた。

2) ジャケットのアームホール曲線について

図11は、試料として用いたドレス原型とジャケット原型である。原型は文化式の9号ドレス原型であり、これをもとにして展開したジャケット原型2種、幅出ししていないものと、幅出したもの、シャネル原型の3種である。

図12は、原型とジャケット原型3種の曲線を同一座標上に重ねたもの(Back)である。

良く一致した曲線となっている。

図13は、シャネル原型とシャネルジャケットの曲線を重ねたもの(Back)である。

同一座標上では一致していないが平行移動して曲線を重ねて見ると良く一致している。(Back)

表1 雑誌の製図より作成したブラウスのA, H曲線についての検討

		バスト	背肩幅	A. H	B. A. H	F. A. H
一	①	98.2	41.6	47.7	26.2 ○	21.5 ○
九装	②	99.4	42.4	48.8	25.7 ○	23.1 ○
九	③	102.8	46.2	48.5	25.0 ●	23.5 ○
三苑	④	105.2	39.4	50.2	25.7 ○	24.5 ×
年	⑤	117.0	45.0	54.1	28.3 ○	25.8 ×
	⑥	124.0	50.0	54.2	28.7 ×	25.5 ×
	⑦	129.6	52.4	53.8	28.5 ○	25.3 ×
一	①	95.2	42.0	49.0	25.2 △	23.8 ○
九装	②	98.8	44.0	51.5	26.0 △	25.5 ○
八	③	101.4	49.0	48.0	25.2 △	22.8 ○
八苑	④	105.6	40.6	51.0	25.0 ○	26.0 ×
年	⑤	109.8	54.4	49.0	25.2 ●	23.8 ●
一	①	96.2	34.8	49.7	25.2 ●	24.5 ○
九装	②	97.4	37.6	43.8	22.3 ○	21.5 ○
八	③	102.4	49.4	50.0	24.0 △	26.0 ○
三苑	④	106.4	50.6	49.8	26.0 ●	23.8 ●
年	⑤	109.2	43.0	47.4	23.7 ●	23.7 ○
	⑥	115.6	48.0	54.0	28.0 ●	26.0 ○
一	①	98.8	37.4	45.8	20.8 ×	25.0 ○
九ド	②	104.8	38.8	49.5	24.0 ○	25.5 ×
九レ	③	108.8	41.0	55.5	28.0 ×	27.5 ×
三メ	④	112.8	38.8	55.0	27.0 =	28.0 ×
年	⑤	116.8	52.4	52.5	27.5 ●	25.0 ○
一	①	102.6	40.0	53.0	27.5 ○	25.5 ○
九ド	②	104.8	42.0	49.5	24.5 ×	25.0 ×
八レ	③	106.6	39.6	52.8	27.0 ○	25.8 ×
八メ	④	112.8	40.6	51.3	26.0 ●	25.3 ●
年	⑤	119.0	43.6	54.5	27.7 ○	26.8 =
一	①	102.8	45.4	41.9	21.4 ●	20.5 ×
九ド	②	104.8	39.0	46.7	23.7 ○	23.0 ×
八レ	③	108.8	38.0	49.5	24.0 ○	25.5 ×
三メ						
年						

表2 ブラウスの工業用パターンのA, H曲線についての検討

	バスト	背肩幅	A. H	B. A. H	F. A. H
①	122.4	53.8	55.2	28.6 ●	26.6 ●
②	106.2	44.8	57.3	29.0 ●	28.3 ●
③	105.2	48.0	50.0	26.0 =	24.0 =
④	102.0	47.2	53.6	28.0 ○	25.6 ●
⑤	104.2	42.4	50.2	25.4 ○	24.8 ●
⑥	112.0	52.0	52.0	27.1 ●	24.9 ●

分類・出現率	A. Hの形	分類・出現率	A. Hの形
○ 45.16%		● 9.68%	
×		= 3.23%	

図7 FRONTにおけるA. H曲線の形と出現率(雑誌によるパターン)

分類・出現率	A. Hの形	分類・出現率	A. Hの形
○ 41.94%		● 29.03%	
×		△ 12.90%	
		= 3.23%	

図8 BACKにおけるA、H曲線の形と出現率(雑誌によるパターン)

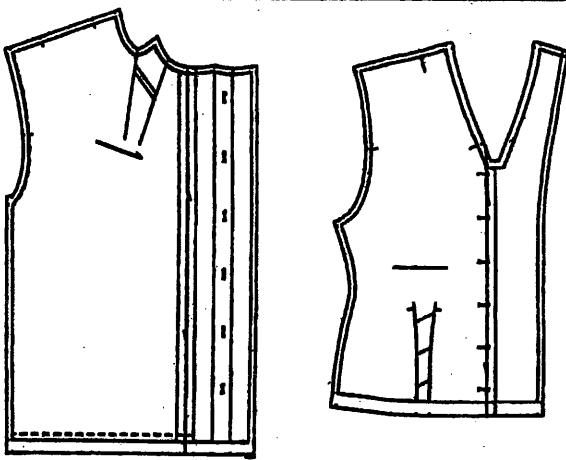
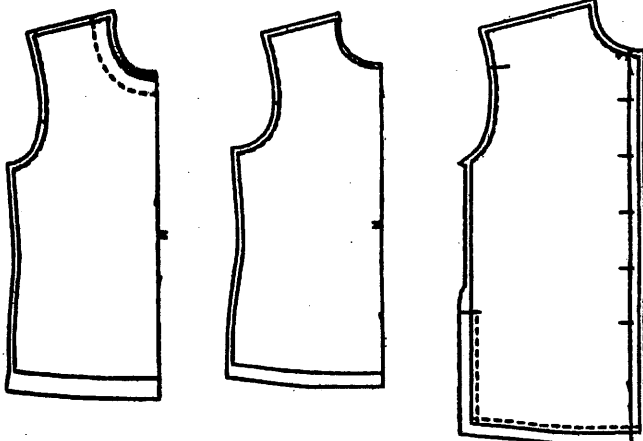
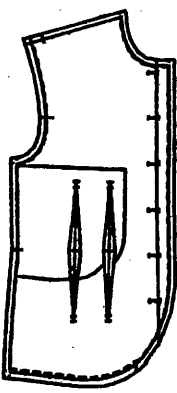
分類	A. Hの形
●	
●	
＝	

図9 FRONTにおける工業用パターンのA. H曲線の形

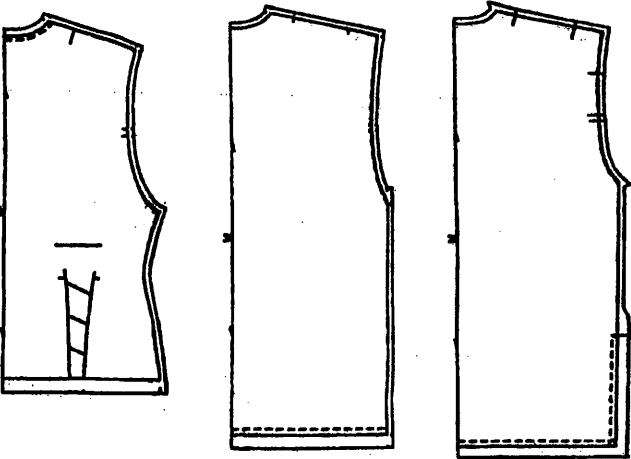
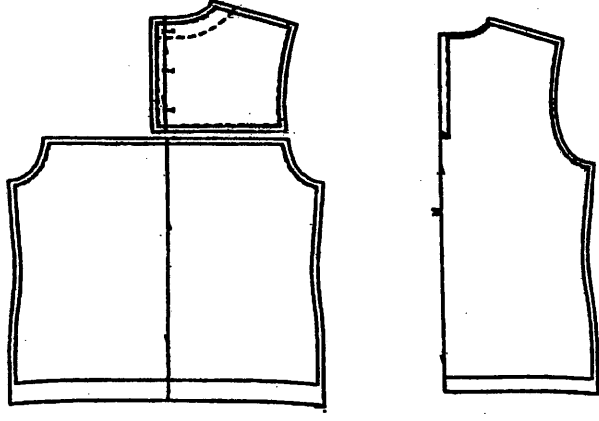
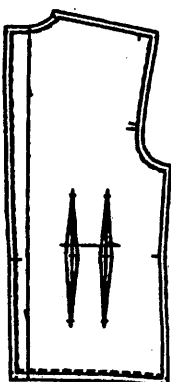
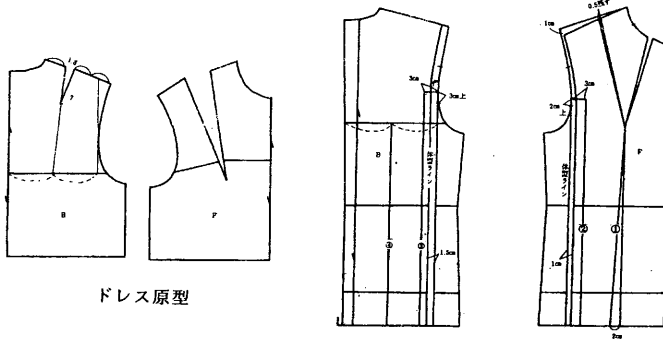
分類	A. Hの形
●	
○	
＝	

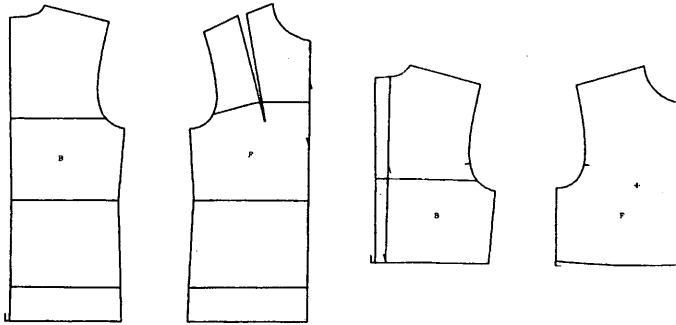
図10 BACKにおける工業同パターンA. H曲線の形

婦人用衣服のアームホール曲線について



ドレス原型

ジャケット原型 (幅出したもの)



ジャケット原型 (幅出ししていないもの)

シャネル原型

図11 ドレス原型とジャケット原型

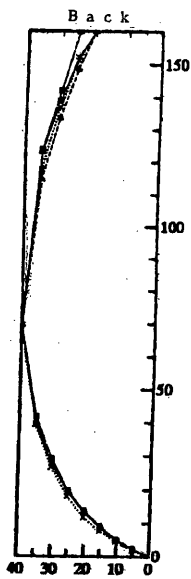


図12 ドレス原型とジャケット原型3種の曲線を重ねたもの

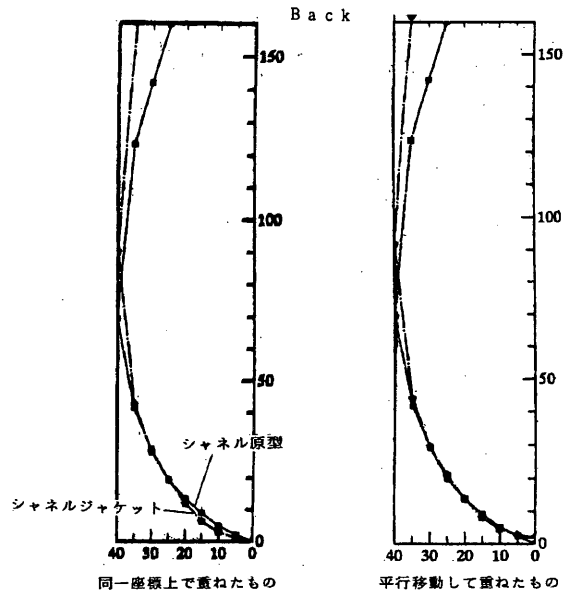


図13 シャネル原型とシャネルジャケットの曲線を重ねたもの

4. ま と め

結果は次の通りであった。

- (1) ブラウスとジャケットの 패턴のアンダーアームホールにも、共通な曲線のイメージがあると考えられた。

本研究は、日本繊維製品消費者科学会1997年年次大会において口答発表したものである。

文 献

- 1) 山田民子, 赤見仁: 東京家政大学研究紀要第38集, 161 (1998)

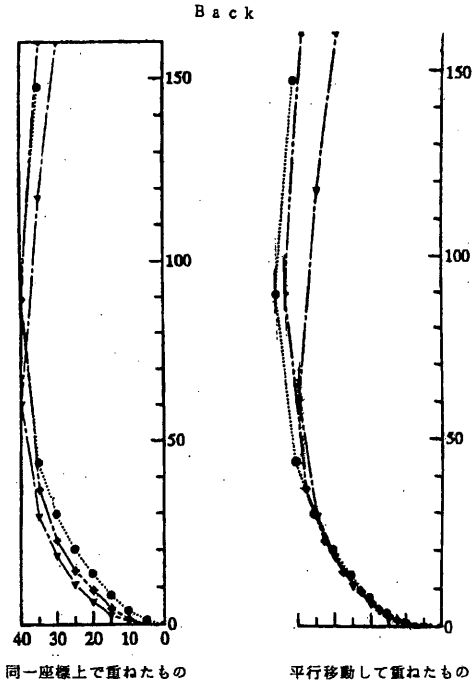


図14 イタリアのジャケットと既成のジャケット2種の曲線を重ねたもの

図14は、イタリアのジャケットパターンと既成のジャケット2種（テーラーカラーのジャケット）の曲線を重ねたもの（Back）である。

平行移動して重ねると一致した曲線となっていることがわかった。

FrontにおいてもBackと同様な結果が得られた。

以上の結果より、ドレス原型とジャケット原型3種とシャネル・ジャケットのアームホール曲線は極一致した曲線となっていた。

テーラード・ジャケット3種のアームホール曲線は平行移動すると重なった曲線となり、ドレス原型にも重なることがわかった。

今回試料とした7種のジャケットのアームホール曲線は、類似した曲線となり原型のアームホール曲線とほぼ同じ形をしていることが分かった。

しかし、試料が少ないため今後も検討を続けて行く。

また、外国のブラウスやジャケットについてもこの方法で行うとどうなるか興味があり、今後検討したいと考えている。